



所属会派：清風クラブ
教育民生常任委員会

いつも笑顔で やる気、根気、元気!

5月臨時会後、所属会派・清風クラブの幹事長に選任され、議会運営委員会、議会活性化委員会に初めて所属することになりました。併せて、2期3年目は教育民生常任委員会、廃棄物対策審議会に所属します。

去る7月2日投開票された東京都議選挙、1か月以上が経過してどのくらいの方が記憶に新しいでしょうか。信頼できる人への一票が投票行為に繋がると信じている私ですが、市民・県民・国民のどのくらいの方が信頼する議員との関係を持ち、どの程度身近に感じているのか。一有権者としても考えることは尽きません。議員活動の「見える化」は常に課題ですが、諦めず、真摯に課題に向き合ってまいります。

平成29年6月2日～6月27日、6月市議会定例会が開催されました。質問時間30分の質疑応答の一部を抜粋してご報告します。ひらつか議会だより第202号（H29.8.4.発行）、後日発行されます会議録と併せてご一読ください。

ひらつか海岸エリアの魅力アップ

問 龍城ヶ丘ゾーン公園の整備について、都市公園法の改正がようやく進み、本市としてもやっと一歩踏み出せる環境が整ってきたと考える。これまでの進捗状況と課題について伺う。

市長 公園の再整備に向けて、国や県など関係機関との調整や、類似事例の情報収集、測量や地質調査などを進めてきた。課題としては、公園整備における本市の負担軽減や、公募による民間事業者の確保などがある。

問 この都市公園法改正は、本市が保有するその他の公園施設にどの程度の影響を与えるのか。

市長 民間事業者が公園整備に参入しやすい環境が整ったことはチャンスと捉えている。今後、総合公園などの比較的大きな規模の公園において、民間事業者の意向等を確認しながら再整備

の検討を行い、より魅力のある公園、市民が楽しめる施設整備を進めていきたい。

一問一答による再質問

問 この都市公園法改正により、龍城ヶ丘ゾーン公園の便益施設や収益施設がどれくらいになるのか。

都市整備部長 これまで公園の敷地の2%以内というのが便益施設の建ぺい率であった。それが10%の上乗せの規定ができたということで、この10%の中には休養施設、遊戯施設、運動施設、供用施設、さらには便益施設も入るので、併せて民間提案として、収益施設も含めて10%の建物ができるということである。

次ページに続く→

問 今後、津波避難機能を持った施設設置を想定しているが、どの程度の高さまで想定されているのか。

都市整備部長 平成27年の神奈川県津波浸水の高さの予測データに基づいて、今後、検討していく。今まで6.9メートルであったのが9.6メートルになった。その9.6メートルの津波が龍城ヶ丘ゾーンにきたときと、ビーチパークゾーンにきたときと多少違うのでその場所に応じた解析をし、更にプラス余裕高として、通常1～2メートルくらいの余裕高が必要であり、それを上回るような津波避難施設の高さが必要であると考えている。

問 この龍城ヶ丘ゾーン公園は観光の拠点にもなると考える。津波避難施設の高さを生かし、ライブカメラなどの導入も検討してもらいたい。ここからしか見えない江の島などを含んだ景観もあり、江の島や藤沢にはないものがここにある、こ

こだから存在する魅力を認識して発信していくことは大切である。また、この地域にはハマヒルガオが群生し自然環境に恵まれている。民間事業者に設計から施行まで一括で委託することにより、本市の景観が変わってしまうのではないかと一市民としては非常に危惧しており、その点の考え方を伺う。

都市整備部長 平塚の海岸でしか味わえないような自然景観というのは、引き続き守っていかなくてはならない。一例としてハマヒルガオという話もあり、白砂斎唱といったきれいな景色などを維持できるように配慮しながら、民間事業者の提案で、賑わい、憩いができるような空間にしていきたいと考えている。



ハマヒルガオ
2017年5月末の平塚海岸にて

(仮称)新文化センターの着実な整備に向けて

問 耐震診断の結果を受け、施設利用者の安全性の確保を図るとして、市民センターは平成27年4月からホールの使用を停止し2年以上の歳月が経過した。コンパクトで使いやすく、基本性能を重視した1千席程度の大ホールを基本にすることを示した(仮称)新文化センターの整備は多くの市民の待ち望むところである。見附台周辺地区整備事業について今後の課題を伺う。

都市整備部長 この事業の確実な実現には、民間活力を生かす必要があるため、その参入意欲を高めることが重要である。そのため事業者の持つノウハウや提案、創意工夫が生かせるような要求水準書の作成を進めていく必要があると考えている。

一問一答による再質問

問 年度内に実施方針が公表される予定だが、

平塚市行財政改革計画・収入確保の推進

～庁舎及び文化ゾーン・平塚市総合公園・馬入ふれあい公園の駐車場有料化～

問 平塚市行財政改革計画では、ここ数年にわたり健全な財政運営の取組みのひとつとして駐車場有料化を検討してきた。今回「庁舎及び文化ゾーン」については個別計画が示され、「平塚市総合公園

要求水準策定の内容等、具体的な計画について伺う。

都市整備部長 今年度初めに委託契約をし、現段階としては新文化センターの基本コンセプト、施設の役割の検討などを進めている。その後、見附台周辺地区全体の土地利用の検討、事業手法、概算工事費等を検討して施設計画、管理運営計画などを含めて引き続き検討していく。これらを一年半くらいかけて進めていく予定である。ある程度の方針ができた段階で、民間事業者が参入できるかどうかも含めた意向調査を今秋以降にできればと考えている。市民への情報提供は遅れることなく、特に周辺環境に著しく影響を及ぼすようなことについては極力配慮し、近隣住民や利用団体にはできるだけ早めに情報提供しながら説明し理解を得ていきたい。

と馬入ふれあい公園」の有料化について個別計画(素案)を示され、一市民としては考え、また一議員としては説明責任も感じている。持続可能な財政構造のひとつとして、今回の受益者負担の考え

方を広く市民に理解していただく必要性を強く感じている。この有料化を進める理由について伺う。

市長 駐車場有料化の取り組みは、「ひらつか協働経営プラン2013」に「健全な財政運営」を実現する事業の一つとして掲げて以降、継続して検討を進め、「平塚市行財政改革計画(2016-2019)」においても「収入確保策の推進」をする事業として、「駐車場有料化事業」を位置付けて検討してきた。

有料化検討の背景として、市役所本館を整備し、分散している市役所機能の集約が図れることで完成後は駐車場の利用者数の増加が予想でき、それに伴って経費の増加の懸念が挙げられる。また、厳しい財政状況の中ではより効率的な管理運営方法が求められるため、庁舎及び文化ゾーン駐車場の有料化を行うことで目的外利用を抑制し、管理運営のノウハウを持った民間事業者を活用することで、効率的な駐車場の運営を実施できると考えている。今後も窓口業務のスピードアップなど市民サービスの向上にも努めていく。

子どもを産み育てやすい環境づくり

(1) 中学校給食

問 平成29年度から中学校昼食検討委員会を設置する理由を伺う。

教育長 前回、中学校給食の検討を行ってから既に5年が経過し、児童・生徒数の減少など学校を取り巻く環境に変化が生じてきたこと、県内では中学校給食を実施する自治体が増えてきたこと、平成28年7月に行った現行の業者弁当方式の生徒や保護者へのアンケート調査では中学校給食を望む声があったことなどから、再度、中学校昼食の在り方について検討を行う必要があると考え、設置した。

問 中学校昼食検討委員会の委員構成とこれからの予定、今後の進め方について伺う。

教育長 委員構成は中学校校長会から3人、小学校校長会から2人、市PTA連絡協議会から中学校代表1人、小学校代表1人、市食生活改善推進団体ママの会から1人、学校栄養教諭1人、学校教育部長、教育指導担当部長、企画政策課長、教育指導課長、学校給食課長の計14人となる。これからの予定と進め方については、本委員会は

一問一答による再質問

問 この有料化を進めたあとで、どういう成果、或いは効果が出たのかを、定期的に市民に公表していく必要性を感じるが見解を伺う。

企画政策部長 パブリックコメントでも2件の意見があり、こういったことはきちんと成果を公表していく、市民に知らせてもらいたいとあった。平塚市行財政改革計画(2016-2019)にも明記しているので、年度ごとに公表していきたいと考えている。



神奈川県平塚合同庁舎の駐車場も今秋、有料化になります

平成29年度、30年度にかけて検討を行っていく。平成29年度は、他市への視察、本市の中学校給食の現状と課題などを整理し、平成30年度には提案を取りまとめ、本委員会から教育委員会へ中学校給食の方向性が示される。

一問一答による再質問

問 子どもを産み育てやすい環境づくりの一環として取り組んでおられるので、もう少し幅広い委員の選出をしてはどうか。現状、校長会や市P連など小学校の現役のPTAの方が参画されているが、幼稚園や保育園の父母会があるので、そういったところへの情報提供、或いはそこからメンバーを出してもらおうような考え方が必要ではないか。

学校教育部長 今回の検討委員会については、構成委員を決定し、第1回目の会議を開いたところである。これ以降の変更は難しい部分もあるが、今後なんらかの形で工夫し、そういった方々の意見を幅広く聞き入れるような仕組みを作りたい。

次ページに続く→

(2) 貧困の連鎖を断ち切る取り組み

問 子どもの貧困について、さまざまな報道を通して少しずつ社会で認識されている。本市では、生活保護世帯や生活困窮世帯の中学3年生を対象に学習支援の取り組みを始めてから4年が経過するが、学習に参加する子どもと指導にあたる大学生や大人との信頼関係が継続の鍵になると考えるが現場から感じることを、また課題について伺う。

健康・こども部長 現場から感じることとして、家庭における学習習慣が身に付いていないことや、個々の生徒に学力の差があることなどが挙げられる。

このような生徒が継続的に学習支援を受けるためには、人材や場所など運営面のほか、子どもたちが伸び伸びと学習できるようプライバシーの保護や学力に応じた寄添い型の支援をどのように行

っていくかなど、子どもたちへの接し方についての課題がある。

問 市内各地域で実施している学習支援や子どもの居場所づくりの取り組みの現状を市としてどの程度把握しているのか。

健康・こども部長 子どもたちを広く受入れる学習支援や子どもの居場所などとして、横内地区「横内マイタウンスクール」や八幡地区「やわた子ども村」、岡崎地区「学習教室ピノキオ」や吉沢地区「寺子屋」などがあると認識している。これら地域で実施している学習支援の場や子どもの居場所などへ参加することは中学生の学習支援参加へのきっかけとして有効であると考えている。

【その他の質問】

・地域包括ケアシステム構築に向けた戦略



平塚競輪場メインスタンドがリニューアルされ6月10日竣工記念式典に出席しました。2017年12月末には競輪グランプリ2017が開催されます。

2017年夏以降の予定

8月10日(木)・8月24日(木)

ひらつか地域づくり市民大学(平塚市中央公民館)

8月13日(日) 金目川水温調査

8月25日(金)～9月20日(水) 9月定例会

10月31日(火)～11月1日(水) 議会運営委員会視察

11月8日(水)～10日(金) 第79回全国都市問題会議(那覇市)

※平塚市内で開催される講演会・学習会にも参加させていただいています。

「お薦め!」がありましたら、気軽にお声掛け下さい。

最後に



2017年5月、日本国憲法施行70周年記念行事・国会議事堂見学
背筋が伸びる感じがしました。

とてもアナログな佐藤たかこが、ブログやホームページを展開しています。

「佐藤たかこ 平塚」で検索し、是非、ご覧ください!

佐藤たかこ 平塚

検索



ご意見・ご質問、応援メッセージは、E-mail: takatan.kike@md.scn-net.ne.jp

又はファックス 0463-21-7600 にてお知らせください。